

車載情報通信機器の ヒューマンインターフェースデザイン

岡田英樹*
安部芳典*
岩崎建樹*



表示・操作部に関する運転席周りの基本デザイン案

安全で快適なヒューマンインターフェースを目指し、表示と操作の分離、情報の最適表示をコンセプトとする基本デザイン案を示す。

近年、自動車の情報化が進展するとともにナビゲーション機能を取り込むことが一般化されつつあり、以前と比較して快適なドライブが可能になったが、その反面、運転時の操作性や安全面に対して、将来、課題となると思われる項目も少なくない。

運転時の安全性や快適性を確保する上で、運転者から見た車載情報通信機器の表示部の在り方や操作方法といったヒューマンインターフェースは、自動車の安全走行にかかる重要な課題であり、中でも、表示と操作に対するデザイン的要素は重要な項目である。

三菱電機(株)では、ますます高機能化する車載情報通信機器との安全で快適なヒューマンインターフェースを目指し、表示と操作の分離をコンセプトとする“カーマルチコミュニケーションシステム”，情報の最適表示をコンセプトとする“統合化ディスプレイ”的基本デザイン案を開発した。

また、情報通信機器が持つ利便性と車載機器に求められる安全性とが両立できる機器の開発に向け、開発内容の高度化とともに、カーライフの多様化に伴うユーザニーズの変化に対応したヒューマンインターフェースデザインの新たな課題に鋭意取り組んでいく計画である。